

年始ニハ人ゴト餅ヲ賞翫スルハ何ニノ心カアル餅ハ福ノモノナレバ祝ニ用フル歟昔豊後國  
球珠郡ニヒロキ野ノアル所ニ大分郡ニスム人ソノ野ニキタリテ家ツクリ田ツクリテスミケ  
リアリツキテ家トミタノシカリケリ酒ノミアソビケルニトリアヘズ弓ヲイケルニマトノナ  
カリケルニヤ餅ヲク、リテ的ニシテイケルホドニソノ餅白キ鳥ニナリテトビサリニケリソ  
レヨリ後チ次第ニオトロヘテマドヒウセニケリアトハムナシキ野ニナリタリケルヲ天平年  
中ニ速見郡ニスミケル訓邇ト云ケル人サシモヨクニギワヒタリシ所ノアセニケルヲアタラ  
シトヤ思ヒケン又コ、ニワタリテ田ヲツクリタリケルホドニソノ苗ミナウセケレバオドロ  
キヲソレテ又モツクラズステニケリト云ヘル事アリ餅ハ福ノ源ナレバ福神サリニケル故ニ  
オトロヘケルニコソ福ノ體ナレバ年始ニモテナスベシ二人ムカヒテ餅ヲヒキワルヲバ福引  
ト云ナラハセルモユヘナキニ非ル歟又内教ニハ餅ノ名ヲ福生菓ト云ルト云ヘリ

〔擁書漫筆〕今の世正月の餅をそこなはじと酒樽に納おくことあり曾呂里狂歌咄一の卷に南  
都諸白と書つけたる一樽はるくおくられるは俳諧好る人には氣がはたらかず我等酒を  
好まぬ事は日頃よく知ながら名物なればとて南都諸白うれしからず今宵の客衆の仕合と主  
不興ながら封を切てみれば酒樽に餅をつめて越けるにぞ上戸どもはおどろきちからおと  
しぬと見えたれば當時よりせしわざにや

〔江家次第〕正月供御藥略○中 此外稱腋御膳自御厨子所供御齒固具又供御藥酒等以高坏六本獻之  
有餅鏡用近江火切

〔玉海〕養和二年正月一日壬申依爲喪家之内不見鏡

建久五年正月一日癸亥見鏡如例女房於別屋著白掛見之雖重服人無憚之由見保元二年故殿御  
記二日甲子見鏡又如例三日乙丑即見鏡